

イエス・キリストの啓示 - 第九

イザヤの最終の預言的叙述：キリストの啓示と14万4千人の預言的役割

Jeff Pippenger

2023-11-01

イザヤ書、特に四十章から六十六章に見られるイザヤの最後の預言的叙述は、人類の猶予期間の終わりに近づく今まさに封印が解かれつつあるイエス・キリストの黙示と直接結びつく、いくつかの重要な預言的真理を強調している。これらの真理の一つは、アルファとオメガの啓示である。物事の初めにその終わりを示されるという神のご性質の側面について語るイザヤの証言に匹敵する書は、聖書の中に他にない。

誰がこれを行い、成し遂げ、初めから代々を呼び出したのか。わたし、主である。わたしは初めであり、最後の世代と共にいる。わたした。イザヤ書 41:4.

イザヤ書において、神は神が神であることを証明するものが何であることを示している。

イスラエルの王、彼の贖い主である万軍の主はこう言われる。「わたしは初めであり、わたしは終わりである。わたしのほかに神はない。わたしのように呼ばわり、これを告げ、わたしのために整える者はだれか。わたしがいにしえの民を定めた時からのことだ。来たるべき事ども、これから起こる事どもを彼らに示してみよ。恐れるな。おののくな。わたしがその時からあなたに告げ、これを知らせたではないか。あなたがたはまさにわたしの証人である。わたしのほかに神があるか。いや、ほかに神はない。わたしは知らない。」イザヤ書 44:6-8

イザヤの最後の預言的叙述は、イエスが約束した慰め主の到来の完全かつ最終的な成就を強調している。

わたしに聞け、義を追い求める者たちよ、主を尋ね求める者たちよ。あなたがたが切り出された岩、あなたがたが掘り出された坑の口を見よ。あなたがたの父アブラハム、あなたがたを生んだサラを見よ。わたしが彼をただひとり召し、彼を祝福し、彼を増し加えたからである。主はシオンを慰め、荒れ果てたすべての場所を慰められる。その荒野をエデンのように、その荒れ地を主の園のようにされる。そこには喜びと楽しみ、感謝と歌声が見いだされる。イザヤ書 51:1-3.

慰め主は2023年7月に到来した。イザヤの叙述で強調されているもう一つの真理は、七つの雷鳴の隠された三段階の歴史であり、これはヘブライ語アルファベットの第1、第13、そして最後の文字から成るヘブライ語の語「emeth」の構造である。

町からの騒ぎの声、神殿からの声、主がその敵に報いを下す声。イザヤ書66:6.

イザヤ書に示されているもう一つの重要な真理は、イスラムが、まずアメリカ合衆国に対し、次いで世界に対して、日曜遵守を強制する法の成立のために、神の裁きを執行する手段として果たす役割である。

量りをもって、それが芽を出すとき、あなたはそれと論じるであろう。彼は東風の日に、その荒い風をとどめる。イザヤ書 27:8

これらすべての真理は「真夜中の叫び」のメッセージの構成要素として分類できる。「真夜中の叫び」とは、父がイエスに与え、イエスがガブリエルに与え、ガブリエルがヨハネに与え、ヨハネがそれを書き記して諸教会に送った「イエス・キリストの黙示」のメッセージを、十人の乙女のたとえが表象したものである。私たちは、黙示録の第十一章から始まる預言的出来事の連なりを裏づけるために、イザヤ書の最後の叙述を用いてきたが、今や第十二章に至った。そこでは、太陽を身にまとった女が、イザヤ書がきわめて確固として支持する象徴によって描かれている。すなわち、キリストは物事の終わりを、その始まりによって示す、ということである。

そして、天に大いなるしるしが現れた。太陽を身にまとい、足の下には月があり、頭には十二の星の冠をかぶっている一人の女がいた。彼女は身ごもっており、産みの苦しみのあまり叫び、出産の痛みにあえいでいた。さらに、天にもう一つのしるしが現れた。見よ、大きな赤い龍で、七つの頭と十本の角があり、その頭には七つの冠があった。その尾は天の星の三分の一を引き寄せ、地に投げ落とした。そして龍は、産もうとしている女の前に立ち、彼女が子を産むやいなやその子を食らおうとしていた。女は男の子を産んだ。その子は鉄の杖をもってすべての国々を治めるように定められており、彼女の子は神のもと、神の御座へと引き上げられた。黙示録 12:1-5

ヨハネの黙示録12章の女は、歴史を通じての神に選ばれた民の象徴である。古代の文字どおりのイスラエルの十二部族は、神に選ばれた契約の民の始まりを表している。十二部族は、キリストが十二弟子を選ばれたとき、古代の文字どおりのイスラエルの終わりを予表している。古代の文字どおりのイスラエルの終わりにいたその十二弟子は、現代の霊的イスラエルの始まりにおける十二使徒でもあった。二つの始まりの証言と一つの終わりの証言が合わさって三つの証言となり、十四万四千人が現代の霊的イスラエルの終わりであることを確証する。

十四万四千人は、同胞によって追い出されたしるしでもある。彼らはまた、底なしの淵から上ってきた獣に殺され、ソドムとエジプトという大いなる都の街路に横たわる、干からびた死骨の谷というしるしでもある。彼らはまた、女がその頭に戴いている冠を飾る石というしるしでもある。

その日、彼らの神である主は、ご自分の民の群れのように彼らを救われる。彼らは王冠の宝石のように、主の地に掲げられる旗印のように高く掲げられる。ゼカリヤ書9章16節

旗印、すなわち十四万四千は石であり、キリストも同様である。

そして、皆は同じ霊的な飲み物を飲んだ。彼らに従っていたその霊的な岩から飲んだからである。そして、その岩はキリストであった。コリント人への第一の手紙 10:4。

キリストは十四万四千人の予型であり、ペテロはキリストが退けられた「生ける石」であるという点でパウロと一致しており、また、神の民も「生きた石」であることを示した。

あなたがたは、人には確かに捨てられたが、神に選ばれ、尊ばれている生ける石である方のもとに来ています。あなたがたもまた、生ける石として、霊的な家に築き上げられ、聖なる祭司となって、イエス・キリストによって神に受け入れられる霊的ないけにえをささげるのです。第一ペテロ 2:4,5.

十四万四千人は、女の冠の宝石であるだけでなく、冠そのものでもある。

シオンのために私は沈黙を守らず、エルサレムのために私は休むことがない。その義が光のように輝き出し、その救いが燃え続けるともしびのように輝くまで。諸国民はあなたの義を見、すべての王たちはあなたの栄光を見る。主の口が名づける新しい名で、あなたは呼ばれる。あなたは主の御手のうちの栄光の冠、あなたの神の御手のうちの王家の宝冠となる。イザヤ書 62:1-3.

キリストは十四万四千人を象徴している。彼は岩であり、彼らは「石」である。彼らは「主の御手のうちにある栄光の冠」であり、キリストはその栄光の冠である。

その日には、万軍の主は、その民の残りの者にとって栄光の冠、美の宝冠となり、さばきの座につく者にはさばきの霊となり、戦いを城門へと押し返す者には力となる。イザヤ書 28:5, 6.

始まりと終わりの文脈で十二という数を考えると、その女は、シナイ山における古代イスラエルの選ばれた契約の民から、十四万四千人の歴史に至るまでを表している。彼らはキリストによって象徴されてきた。また、彼の誕生は、2020年7月18日に彼らが殺された通りからの、死に絶えた干からびた骨の復活を象徴していた。エゼキエル書37章が極めて簡潔に示している、その二人の預言者を生き返らせる二段階の過程は、アダムの創造において「最初に言及されている」。

アダムは二つの段階で創造された。まず彼は形作られ、その後キリストが命の息を彼に吹き込まれた。ちょうどエゼキエル書において四方の風からの息が干からびた骨に命を与えたのと同様である。アダムは完全に成熟した男として創造されたが、それでも彼の創造は彼の誕生にほかならなかった。十四万四千人は、死の谷を貫く通りで死んだまま横たわる象徴的な三日半の後に生まれる。十四万四千人は、鉄の杖で支配することになっていた「男の子」を産んだ女から生まれる。歴史を通じて教会を象徴する存在として、黙示録12章の女は、ダニエル書2章の「山」と同じ象徴を表している。

「黙示録は封印された書であるが、同時に開かれた書でもある。それには、この地球の歴史の最後の日々に起こるであろう驚くべき出来事が記録されている。この書の教えは明確であって、神秘的で不可解なものではない。その中では、ダニエル書と同じ系統の預言が取り上げられている。神はいくつかの預言を繰り返しておられ、それによってそれらが重んじられるべきものであることを示しておられる。主は重要でない事柄を繰り返されることはない。」 Manuscript Releases, 第9巻, 8.

ダニエル書に見いだされる同じ系譜の預言が、ヨハネの黙示録で受け継がれている。ダニエル書の「人手によらずに山から切り出された石」は、ペテロの言う「生ける石」、すなわち「霊の家として建てられ、聖なる祭司職となる」者たちであり、またその石は十四万四千人も表している。その山は、歴史を通しての神の教会である。

これらの王たちの時代に、天の神はひとつの王国を打ち立てられる。それは決して滅びることがなく、その王国はほかの民に渡されることもない。かえって、それはこれらすべての王国を打ち砕いて滅ぼし尽くし、とこしえに立つ。あなたが見たとおり、人手によらずに山から切り出された石が、鉄、青銅、粘土、銀、金を打ち砕いた。大いなる神は、この後に起こることを王にお示しになったのである。この夢は確かであり、その解き明かしは確実である。ダニエル書 2章44、45節。

十四万四千人の「真夜中の叫び」のメッセージは後の雨としても表されており、神がダニエルの石によって象徴される王国を「打ち立てる」のは後の雨の時期である。

後の雨は清い者たちの上に降ろうとしている——そのときには皆、以前のようにそれを受けるだろう。

四人の天使が手を離すとき、キリストはご自身の御国を打ち立てられる。できる限りのことをしている者以外は、誰も後の雨を受けない。キリストは私たちを助けてくださる。すべての人は、神の恵みにより、イエスの血によって勝利者となり得る。天のすべてがこの働きに関心を寄せている。天使たちも関心を寄せている。Spalding and Magan, 3.

イスラムの四つの風は日曜法令のときに解き放たれ、その後にキリストがご自身の御国を打ち立てられる。これはダニエル書2章の霊的な諸王国の時代に起こる。ネブカドネザルの夢における最後の四つの霊的王国は、最初の四つの歴史上の王国によって予表されていた。歴史上のバビロン、メド・ペルシャ、ギリシャ、ローマは、霊的なバビロン、メド・ペルシャ、ギリシャ、ローマを表している。

霊的バビロンは、1798年に致命的な傷を受けた金の頭であり、それはネブカドネツアルが「七つの時」のあいだ一時的に権力から退けられたことで象徴されている。竜と獣と偽預言者の三重の連合が、七つに属する第八の王国を形成するとき、それは第二章のネブカドネツアルの像に表されているすべての霊的王国から成り立つことになる。死んだ教皇制とよみがえった教皇制は、その像における四つの霊的王国の始めと終わりに位置する霊的な金の頭である。アメリカ合衆国は、四つの王国の第二として霊的なメド・ペルシャとして表されている。国際連合は、四つの王国の第三として霊的なギリシャとして表されており、彼らは共に、竜と獣と偽預言者の三重の連合を構成して、七つに属する第八の王国を樹立する。教皇制は反キリストであり、キリストを模倣しようとする。この点において、最後の四つの霊的王国のうち、教皇制は最初であり最後である。

山から切り出された石は、全地を満たす王国となり、「これらの王たちの時に」旗印として掲げられる。なぜなら、像の霊的な諸王国はすべて、「終わりの日」においてなお活動しているからである。旗印が掲げられること、すなわちキリストの王国の樹立は、イスラムの四方の風が解き放たれ、日曜法の時に後の雨が限りなく注がれるときに起こる。

山から切り出された石は、「鉄、青銅、粘土、銀、金」に象徴されている地上の霊的な諸王国をことごとく打ち砕く。十四万四千人は、黙示録十二章で「男の子」とされるキリストを表しており、その誕生は十四万四千人の誕生の型であった。「男の子」は「鉄の杖をもって万国を治める」。その杖によって、彼は諸国を打ち砕く。

私は主の定めを告げよう。主は私に言われた、「あなたは私の子だ。今日、私はあなたを生んだ。わたしに求めよ。わたしは諸国の民をあなたの嗣業とし、地の果てをあなたの所有として与える。あなたは鉄の杖で彼らを打ち砕き、陶工の器のように粉々にする。」詩篇 2:7-9.

神の御子は父なる神から生まれた。多くの人はこの真理を取り上げ、それを曲解して自らの滅びを招いている。「生む」とは出産することを意味するが、キリストが存在しなかった時は一度もなかったことを私たちは知っている。

「さて、御霊ははっきり言われる。終わりの時には、ある者たちは信仰から離れ、惑わす霊と悪魔の教えに心を留め、偽善によって偽りを語り、良心に焼きごてを押されたかのように麻痺するであろう。」背教の働きが最後の段階に至る前に、信仰の混乱が起こるだろう。神の奥義について明確で確定的な考えはなくなり、真理は次々と曲げられていく。「そして異論なく、敬虔の奥義は大いなるものである。神は肉において現れ、御霊において義とされ、御使いたちに見られ、異邦人に宣べ伝えられ、世において信じられ、栄光に上げられた。」キリストの先在を否定し、ゆえにその神性を否む者が多く、彼を個人的な救い主として受け入れない。これはキリストの全面的な否定である。彼は初めから御父と一つであられた神の独り子であり、万物は彼によって造られた。『サインズ・オブ・ザ・タイムズ』1894年5月28日。

キリストが父から「生まれた」方であるとされるとき、それはキリストに関わる真理を指し示している。しかしその真理は、それを人間の親子関係のモデルに無理に当てはめるなら、破壊されてしまう。私たちは人間的な視点から神を評価することはできない。私たちが神を評価できるのは、神がご自身についての評価を私たちに示されるとおりにのみである。

悪しき者はその道を捨て、不義の人はその思いを捨てよ。主に立ち返れ。そうすれば主はあわれみをかけてくださる。わたしたちの神に帰れ。主は豊かに赦してくださるからだ。わたしの思いはあなたがたの思いではなく、あなたがたの道もわたしの道ではない、と主は言われる。天が地よりも高いように、わたしの道はあなたがたの道よりも高く、わたしの思いはあなたがたの思いよりも高い。イザヤ書 55章7-9節。

「begotten」という語を、父がかつてキリストを生んだ時があったと特定するために曲解するのは、「惑わす霊や悪魔の教えに耳を傾ける」ことにほかならない。今回の考察の目的上、私は単に、黙示録十二章の女が、鉄の杖をもって諸国を治めることになっている「男の子」を産むことになっていた、と指摘しているにすぎない。十四万四千人もまた、鉄の杖をもって諸国を治めることになる。

テアテラの教会は、日曜法において教皇権の致命的な傷が癒されるときに再び現れる。その時代に、神の民に与えられている約束は、勝利する者たちは「鉄の杖」をもって「諸国民」を治めるというものである。

勝利を得て終わりまで私のわざを守る者には、私は諸国民を治める権威を与える。彼は鉄の杖をもって彼らを治め、陶工の器のように彼らは粉々に打ち砕かれる。ちょうど私が父から受けたとおりに。ヨハネの黙示録 2:26、27。

テアテラにある教会の最終的な顕現における神の民は、十四万四千人である。初めにその女はキリストを産み、終わりには小羊に従う十四万四千人を産む。

彼らは、御座の前で、また四つの生き物と長老たちの前で、まるで新しい歌のような歌を歌った。そして、その歌を学ぶことができたのは、地から贖い出された十四万四千人のほかには、だれもいなかった。これらは、女と交わって身を汚さなかった者たちで、彼らは童貞である。これらは、小羊がどこへ行くにも従って行く者たちである。これらは人々の中から贖い出され、神と小羊にささげられる初穂となった。ヨハネの黙示録14章3、4節。

キリストは「最初に」生まれ、十四万四千人は小羊に従うので、彼らは「最後に」生まれる。キリストは「神のみもとに引き上げられた」が、これは黙示録十一章の二人の証人と同様である。彼女の二人の子はどちらも御父のもとへ昇る。

そして彼女は男の子を産んだ。その子は鉄の杖ですべての国々を治めるはずであった。彼女の子は神のもと、その御座へと引き上げられた。黙示録 2:5。

万軍の主としてのキリストは、また『ヤコブの受け分』でもあり、イスラエルは『彼の嗣業の杖』であり、またイスラエルは、彼が『諸国を粉々に打ち砕く』ために用いる、彼の『戦いの斧』および『戦いの武器』でもある。

ヤコブの分け前は彼らとは異なる。彼はすべてのものの造り主であり、イスラエルはその嗣業の杖である。その名は万軍の主である。あなたはわたしの戦斧、戦いの武器である。わたしはあなたによって国々を打ち砕き、あなたによって王国を滅ぼす。エレミヤ書 51:19, 20。

キリストと十四万四千人は、いずれも鉄の杖をもって諸国民を治め、打ち砕く。キリストは「ヤコブの分け前」であるが、ご自分の民もまた同様である。

主の分け前はその民、ヤコブは主の嗣業の分である。申命記 32:9

神の教会を表す山から切り出された石は、地を神の栄光で満たす神の教会の最終的な現れであり、彼らは神の戦いの斧として用いられて像の足を打ち、それらの王国を「夏の打ち場のもみがら」に変える。それらの王国は風に吹き払われる。

そのとき、鉄も、粘土も、青銅も、銀も、金も、みな一緒に粉々に砕かれ、夏の打ち場のもみがらのようになった。風がそれらを運び去り、それらのための場所はどこにも見いだされなかった。また、その像を打った石は大いなる山となり、全地に満ちた。ダニエル書 2:35。

天に掲げられる旗印という文脈に、女の象徴を位置づけることが必要であった。というのも、黙示録十二章は、天で始まったキリストとサタンの戦いの始まりを明らかにしており、そのことによって、キリストとサタンの大争闘の終結を示す天上の戦いをも指し示しているからである。黙示録十二章と十三章は、大争闘の最終戦を描いており、天において戦うサタンの代表者たちと十四万四千人を描写することによってそれを示している。

次の記事では、初めに起こった天での戦いを型とする「終わりの日」の天での戦いを取り上げます。

また私は見た。地から上ってくるもう一つの獣がいた。その獣には小羊のような二本の角があり、竜のように語った。彼は第一の獣の前で、そのすべての権勢を行使し、致命的な傷がいやされたその第一の獣を、地とそこに住む者たちに礼拝させた。また彼は大いなるしるしを行い、人々の目の前で、天から火を地上に降らせるほどであった。そして彼は、獣の前で行うことを許されたその奇跡によって地に住む者たちを惑わし、剣で傷を負いながら生きたその獣の像を作るよう、地に住む者たちに言った。彼はまた、獣の像にいのちを与える力を与えられ、獣の像が語ることもでき、さらに、獣の像を礼拝しない者はみな殺されるようにした。彼はまた、小さい者にも大きい者にも、富める者にも貧しい者にも、自由な者にも奴隷にも、すべての者に、右手か額に刻印を受けさせた。そして、その刻印、または獣の名、あるいはその名の数を持つ者以外は、だれも買うことも売ることできないようにした。ここに知恵がある。悟りのある者は獣の数を数えよ。それは人間の数であり、その数は六百六十六である。

ヨハネの黙示録 13:11-18.